

イスラエルの人々⑬

## □イスラエルの人々の信仰の手本（失敗から学ぶ）

わたしの栄光と、わたしがエジプトとこの荒野で行ったしるしとを見ながら、十度もこのようにわたしを試み、わたしの声に聞き従わなかつた者たちは、だれ一人、わたしが彼らの父祖たちに誓つた地を見ることはない。（民14：22～23a）

## □前回までの振り返り

1. イスラエルの民は、シナイ山のふもとで、主がモーセに命じられたとおりに、幕屋を製作し、設営し、油注ぎをして聖別した。
2. イスラエルの民は、宿営の仕方と旅をするときの進行の順序についての命令、そして銀のラッパ2本の製作とその使用法についての命令を受けた。
  - (1) 宿営の仕方・・・幕屋のまわりにレビ人が宿営する。幕屋の東側にユダの宿営、南側にルベンの宿営、西側にエフライムの宿営、北側にダンの宿営。各3部族。
  - (2) 進行順序・・・ユダ、幕屋、ルベン、聖なるもの、エフライム、ダン
  - (3) 銀のラッパ・・・出発のとき、1本のラッパを短く吹き鳴らすとユダが出発。二度目に短く吹き鳴らすとルベンが出発。なお、「出発」以外の使用法も定めあり。
3. そして、いよいよ約束の地に向けてシナイ山のふもと（シナイの荒野）から出發した。エジプトを出てから2年目の第二の月（5月）20日のことであった。

民数記 10：11～12 二年目の第二の月の二十日に、雲があかしの幕屋の上から離れて上った。それでイスラエルの子らはシナイの荒野を旅立った。雲はパランの荒野でとどまった。彼らは、モーセを通して示された主の命により初めて旅立った。

  - (1) モーセを通して示された主の命により初めて旅立った・・・銀のラッパを吹き鳴らし、進行順序にしたがって旅立ったのは、このときが初めて。宿営地に着いたら幕屋を中心として東・南・西・北の四方向に宿営するのも、これからが初めてとなる。
  - (2) 雲はパランの荒野でとどまったく・・・約束の地に入るための経由地は「パランの荒野」である。シナイの荒野を旅立って、イスラエルの民は、いくつかの宿営地をたどりながら、パランの荒野まで行った。パランの荒野に到着のときの記事は、民数記12：16からとなる。民数記11章から12章15節までは、シナイの荒野を旅立ってパランの荒野に着くまでの出来事。
4. 前回は、パランの荒野に着くまでの出来事を見た。民は主に激しく不平を言うなど3つの事件を起こした。
5. 今回は、パランの荒野に到着。宿営地はカデシュ。申命記1：19では「カデシュ・バルネア」。約束の地を目前にして、カデシュ・バルネア事件が起きた。

□イスラエルの人々の信仰⑬ カデシュ・バルネア事件

1. 12人の族長を偵察のために約束の地に派遣（民12:16～13:20）

(1) 12:16～13:2 それから民はハツエロテを旅立ち、パランの荒野に宿営した。主はモーセに告げられた。「人々を遣わして、わたしがイスラエルの子らに与えようとしているカナンの地を偵察させよ。父祖の部族ごとに一人ずつ、族長を遣わさなければならない。

- それから・・・ミリアムが七日間、宿営から締め出されて、戻ってから
- ユダ族からカレブ、エフライム族からホセア、ほか10名、計12名
- モーセは、ホセアをヨシュアと名づけた。（民13:16）ヨシュア「主は救い」の意味、ホセアはその短縮形

(2) 偵察に派遣するに際してのモーセの指示（民13:17～20）

- ① 向こうに上って行ってネゲブに入る。そこから山地に行く。
- ② その地がどのようなものであるか、調べる。調査の要点は次のとおり。
  - そこに住んでいる民が強いか弱いか、少ないか多いか
  - 彼らが住んでいる土地はどうか、それが良いか悪いか
  - 彼らが住んでいる町々はどうか、それらは宿営か、それとも城壁の町か
  - 土地はどうか、それは肥えているか痩せているか
  - そこには木があるかないか
- ③ 勇気を出して、その地の果物を取って来る（その季節は初ぶどうの熟する時期であった）

2. 40日間の偵察（民13:21～25）

(1) 偵察した地域：ツインの荒野からレボ・ハマテのレホブまで（民13:21）

- ① ツインの荒野：偵察地域の南端。パランの荒野に隣接。パランの荒野での宿営地カデシュは、ツインの荒野との境目に位置していたので、偵察に出発したら、すぐにツインの荒野に入る。
- ② レボ・ハマテのレホブ：偵察地域の北端。ダマスコよりもさらに北か？

(2) ヘブロンにはアナク人の有力者たち3人がいた（民13:22）

- ① ヘブロン：イスラエルの民にとって重要な場所。アブラハムがヒッタイト人エフロンから、私有の墓地とするために、畠地とともに買い取った洞穴がある。その墓には、アブラハムと妻サラ、イサクと妻リベカ、ヤコブと妻レアが葬られていた（創49:29～31、50:13）。
- ② アナク人：「アナク」とは「首飾りをつけた人々」の意味。アナク人の先祖となった人物は、アルバ（ヨシュア15:13）。アナク人の間で偉大な人物として尊敬され、ヘブロンの町の旧名は「キルヤテ・アルバ（アルバの町）」

③ 有力者たち3人は、アルバの三人の息子たち（アヒマン、シェシャイ、タルマイ）。45年後、ユダ族のカレブがこの地を割り当て地として受けて、彼らを追い払った（ヨシュア14：10、15：14）。

(3) ぶどう・いちじく・ざくろ採取し、40日間の偵察を終えて帰還（13：23～25）

23～25節 彼らはエシュコルの谷まで来て、そこでぶどう一房ついた枝を取り、二人で棒で担いだ。また、ざくろやいちじくの木からも切り取った。その場所は、イスラエルの子らがそこで切り取ったぶどうの房にちなんで、エシュコルの谷と呼ばれた。四十日の終わりに、彼らはその地の偵察から戻った。

- エシュコル＝一房のぶどう

### 3. 偵察から戻り、パランの荒野のカデシュにて民に報告（民13：26～14：9）

(1) 12人の族長たちの報告（民13：26～29）

26～28節 彼らは、パランの荒野のカデシュにいるモーセとアロンおよびイスラエルの全会衆のところにやって来て、二人と全会衆に報告をし、その地の果物を見せた。彼らはモーセに語った。「私たちは、あなたがお遣わしになった地に行きました。そこには確かに乳と蜜が流れています。そして、これがその果物です。ただ、その地に住む民は力が強く、その町々は城壁があつて非常に大きく、そのうえ、そこでアナクの子孫を見ました。

- アナクの子孫・・・アナク人アラバの3人の息子たち。ヘブロン地域を支配するアナク人を脅威とする報告

29節 アマレク人がネゲブの地方に住んでいて、ヒッタイト人、エブス人、アモリ人が山地に、カナン人が海岸とヨルダンの川岸に住んでいます。」

- アマレク人：シナイ山に来る前に、アマレク人から襲撃を受けたことがあった。そのときは、ヨシュアが戦場で戦い、モーセは丘の頂に立って神の杖を手にして高く上げていると自軍が優勢になって最後にはアマレク人を撃退できたという出来事であった（出17章）

(2) アナクの子孫やアマレク人と聞いて動搖する民をカレブが静めるが、ヨシュアを除く10人はそれに反対した（民13：30～31）

(3) 10人の族長は、さらに悪く言いふらしたので、全会衆は大声をあげて叫び、民はその夜、泣き明かした（民13：32～14：1）

(4) 会衆は、別の指導者を立ててエジプトに帰ろう、と言い出した（民14：2～5）

2～5節 イスラエルの子らはみな、モーセとアロンに不平を言った。全会衆は彼らに言った。「われわれはエジプトの地で死んでいたらよかったです。あるいは、

この荒野で死んでいたらよかったです。なぜ主は、われわれをこの地に導いて来て、剣に倒れるようにされるのか。妻や子どもは、かすめ奪われてしまう。エジプトに帰るほうが、われわれにとって良くはないか。」そして、互いに言った。「さあ、われわれは、かしらを一人立ててエジプトに帰ろう。」そこで、モーセとアロンは、イスラエルの会衆の集会全体の前でひれ伏した。

- (5) ヨシュアとカレブは全会衆に向かって、「主に背いてはならない。その地の人々を恐れてはならない」と言ったが、会衆は二人を石で打ち殺そうとした。そのとき、主の栄光が会見の天幕から全会衆の前に現れ、会衆の暴行は阻止された。  
(民 14：6～10)

4. 主のさばきの宣言とモーセによるとりなし（民 14：11～14：25）
- (1) 主はイスラエルの民を疫病で打ち滅ぼす。その代わり、モーセから新しい民を起こし、イスラエルよりも強く大いなる国民とする（民 14：11～12）
- (2) モーセのとりなし（民 14：13～19）
- (3) 主の赦し、ただし聞き従わなかった者は約束の地には行けない（民 14：20～25）  
20～25節　主は言られた。「あなたのことばどおりに、わたしは赦す。しかし、わたしが生きていて、主の栄光が全地に満ちている以上、わたしの栄光と、わたしがエジプトとこの荒野で行ったしるしを見ながら、十度もこのようにわたしを試み、わたしの声に聞き従わなかった者たちは、だれ一人、わたしが彼らの父祖たちに誓った地を見ることはない。わたしを侮った者たちは、だれ一人、それを見ることはない。ただし、わたしのしもべカレブは、ほかの者とは違った靈を持ち、わたしに従い通したので、わたしは、彼が行って来た地に彼を導き入れる。彼の子孫はその地を所有するようになる。  
平地にはアマレク人とカナン人が住んでいるので、あなたがたは、明日、向きを変えてここを旅立ち、葦の海の道を通って荒野へ行け。」
- (4) 主に聞き従わなかった世代に対するさばき（民 14：26～45）
- ① 十度も主を試み、主に聞き従わなかった世代は、約束の地に入ることはできない。偵察日数40日、一日を一年と数えて40年、荒野の旅は続くことになる。その40年の間に、20歳以上の登録され数えられた者たちはみな、ヨシュアとカレブ以外、荒野で死に絶える（26～35節）
- ② 偵察のために遣わされた者で、その地を悪く言いふらし、民にモーセに対する不平を言わせた者たち10人は、まもなく疫病で死ぬ（民 14：36～38）
5. 民の勝手な出兵と敗北、ホルマまで敗走（民 14：39～45）【ホルマ 参照 21：3】